

色や物の見え方は段階的に！赤ちゃんが見ている世界

カラコミュVol.29で子どもの「色育」についてお伝えしましたが、一体どれくらいの時期から色の影響を受けるようになるのでしょうか。生まれたばかりの赤ちゃんにも大人と同じように色を見分ける力が備わっているのかなんて、聞かれても想像が付きませんよね。そこで今回は、生まれたばかりの赤ちゃんの色や物の見え方についてご紹介していきます。

◆視力は？何がどのくらい見える？

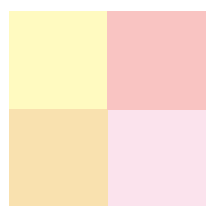
年齢	新生児	0～3ヶ月	6ヶ月	1歳	2歳	3歳	5～6歳
視力	0.03	0.1 以下	0.1	0.2	0.4～0.6	0.6～0.8	1.0

実は生まれたばかりの新生児は視力が0.03程度しかなく、物の形や色もぼんやりとしか見えていません。また、認識できる色も白黒のみで、後は明暗を感じ取れるくらいです。これは赤ちゃんがお母さんのお腹から出てくるときに強い光から目と脳を守るためだと言われています。生まれたときの私たちは、色味がないモノクロの世界にいるんですね。

そこから成長するにつれて視力が上がり、物の形や色が認識できるようになっていくのですが、大人と同等レベルの視力を持つようになるのは3～6歳なのだそうです。

◆色の認識も段階的に

赤ちゃんは「明度」を認識する力が先に発達し、次に「色相」を認識する力が発達します。こうして段階的に発達していき、大人の様にあらゆる色を認識できるようになるのは生後3ヶ月頃になります。ちなみにモノクロの次に認識できる色は赤色であると言われています。



このような色の認識の発達の仕方が関係し、赤ちゃんは左のような明度が高い暖色系の色を好む傾向にあります。これは母乳を飲むときや、抱っこしてもらっている時に感じる母親の肌の色に似て安心感を覚えるからと言われています。また、コントラストがはっきりとした色は脳への適度な刺激にもなって喜ぶそうです。

赤ちゃん用のおもちゃの色にはちゃんとした理由があるんだね！



◆白色と黒色には注意が必要？

赤ちゃんが最初に認識する白と黒ですが、これらは赤ちゃんが好きな色というわけではありません。白色や黒色を多用すると次のような影響があるといわれており、注意が必要になります。



... 白色ばかりの殺風景な部屋で育てると、刺激がなく発達が遅れてしまうと言われています。



... 黒色は威圧感を与える色なので、身につけすぎないように。

部屋や服をモノクロでコーディネートすると洗練されてオシャレな印象を与えますが、赤ちゃんのためにもなるべく明るく優しい色合いのものを選んであげましょう！

デザインの種

今回のテーマ：
「年代によって配色を変えてみよう」

表面では、赤ちゃんや子供と私たち大人では色の見え方が違うことを紹介しました。色の好みなどは、年代によっても変わっていきます。配色を考える際は、ターゲットとなる年代に合わせた色遣いを心がけたいですね。

右の洋品店のセールポスターは、赤ちゃんが好む色をメインに作成されています。このポスターを例にして、それぞれの年代が好む色でデザインしたものに变更してみましょう。

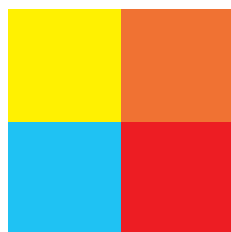


10~30代



POINT!!

10~30代には、原色などの鮮やかな色を使って目立たせたり、ポップで明るい印象を与えるデザインが効果的です。

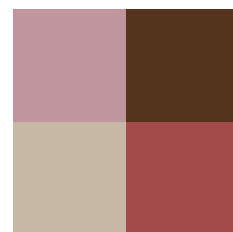


40代以上



POINT!!

40代以上の方には、落ち着いたトーン・色合いのデザインが好まれやすいです。



上記はあくまで一例で、年代を10代前半・後半…とさらに細かく分類したり、嗜好色によっても異なります。ターゲットにする年代が決まっている印刷物を作成する際は、ぜひ参考にしてみてください！

イロイロ雑学

人の顔色は感情で変化する!?

英語では、激しい嫉妬心のことを「嫉妬で緑になる (green with envy)」と表現するそうですが、2018年の研究では、人の顔色が感情で変化するということが証明されているそうです。

例えば、不快な気分ときは口の周りが青や黄色っぽくなり、額や鼻のあたりが赤や緑っぽくなるそうです。反対に、幸せな時や楽しい時は、頬やこめかみが赤く紅潮する一方で、顎は青くなるそうです。実際に、感情と一致する色を重ね合わせた顔写真を見せると、多くの方が写真の人物の気持ちを言い当てることができたそうです！



色彩を使った印刷物で、より良いコミュニケーションを! Let's カラコミュ!!